

地震一口メモ No. 201

海・川からの津波に備える

危険な場所をハザードマップで確認しましょう

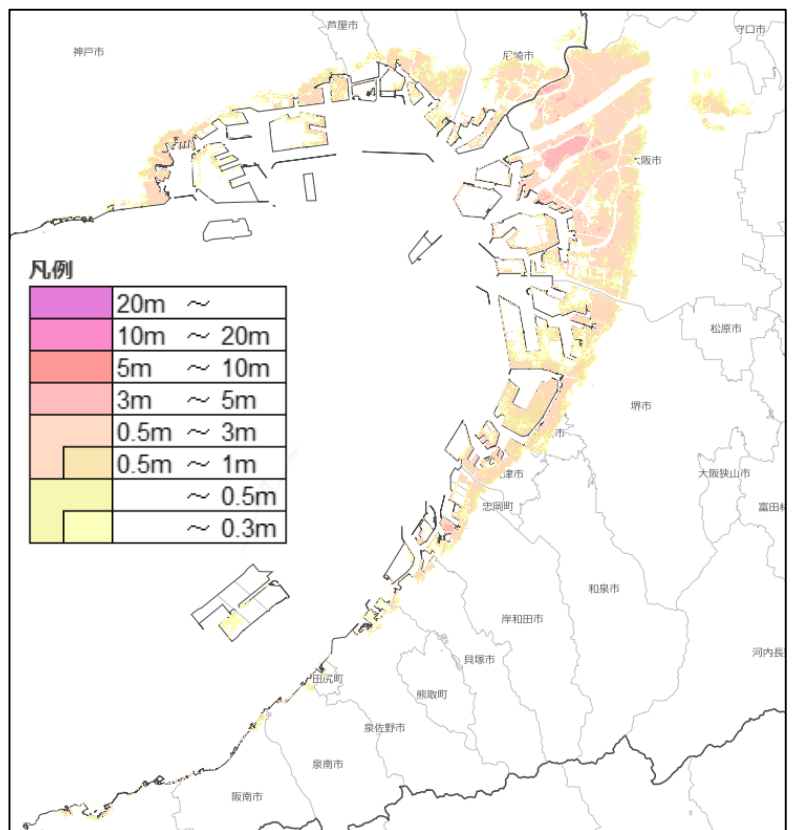
毎年3月11日が来ると東日本大震災について改めて考える方も多いと思います。東日本大震災で甚大な被害が出たのは大阪から遠い東日本ですが、ニュースなどで流れる津波の映像を見て衝撃を受けた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。東日本大震災で岩手県大船渡市では16.7mもの津波が襲ったと推定されています。16.7mというとビルの4~5階に相当する高さです。普段の穏やかな海からは想像のつかない高さだと思います。近畿地方に住む私達が備えている南海トラフ地震でも巨大な津波が予想されています。最悪の場合30mを超える津波が高知県などを襲う可能性があります。大阪でも5mの津波が来ると推定されます。5mは2階程度の建物が水没するくらいの高さです。さらに、津波は普通の波とは異なり海底から海面までの海水全体が動いて襲ってくるために、50cm程度の高さでも成人男性が立ってられないほどの威力があります。津波はオリンピックの陸上の短距離走選手並みの速さで襲ってくるため、津波を見てから逃げるのでは間に合いません。津波が来ることを警報などで知ったらすぐに行動できるように事前に準備しておく必要があります。

津波への備えとして、避難場所を考えておくことや避難訓練をすることなどがあります。また、ハザードマップなどで津波の危険がある場所を知っておくこともとても重要です。下図は大阪府の津波浸水想定ですが、海の近くだけでなく内陸にも津波の危険があることがわかります。津波は川も遡上してくるのです。東日本大震災では川を遡上した津波により河口から離れた場所でも大きな被害が出ました。大阪でも1854年の安政南海地震で安治川、木津川に山のような大波が入ってきて、大勢の人が乗った船が川の上流に押し流されて転覆したと伝えられています。大阪はかつて「水の都」と呼ばれていたように多くの川があり、海も近い場所です。普段はそれらから恩恵を受けていますが、地震が起こったら脅威となることを忘れずに日々備えることが重要です。

右図 津波浸水想定 (想定最大規模)

重ねるハザードマップから引用。
(<https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>)

重ねるハザードマップでは、津波や土砂災害など色々な災害の危険性がある場所・避難場所を重ねて表示することができます。また、このマップからお住いの市町村のハザードマップを見ることができます。



いつでも起こる可能性のある地震に備えて、事前にハザードマップをご確認ください！